特定非営利法人ワーカーズ・コレクティブパレット

2024年度　事業報告書

2024年度事業報告書

1）事業の成果

≪パレット≫

1．パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。

- 各事業所がパレットの理念に基づいた事業の計画・目標を立て、それぞれが責任をもって運営・実施に努めました。
- パレットの理念に基づいた事業の充実のために、小規模保育室　家庭的保育室ないろの 2025 年度末閉室を決定し、利用者、スタッフの理解を得るための話し合いを持ちました。また、フードパントリーの活動を 12 月で終了し、フードドライブの活動のみ継続としました。
- ワーカーの担当業務を見直すことで、他事業所の魅力的な活動や仕組みをパレット全体に展開し、業務の見直しや活性化に繋げています。
- 各事業所での事務業務を軽減するために、2025 年度から事務業務を集約する管理部門充実を決定しました。
- 区役所見守り保育事業を継続し、安定した活動ができました。2025 年度入札に参加し応札しました。2025 年度から一事業として独立することを決定しました。

2．変化していく社会情勢に対応しつつ、多様な親子に寄り添い、適切な支援ができるよう、各事業所や関係機関と連携を密にして取り組んでいきます。

- 女性の在宅育児期間が短くなり、預かり・ひろばともに利用の低年齢化が進みました。その短い期間に地域とつながりが持てるように、情報提供と企画の充実をはかりました。
- 定例会議では、預かりとひろば事業各事業所の視点でとらえた現代の親子像と課題を共有することができました。親子に接する際に多角的な視点を持つ土台を培っています。
- 横浜市が進める DX を各事業所で取り入れました。新しい技術を取り入れ、事業の効率化を図ることができました。その分親子とのコミュニケーションに力を入れることができたか検証が必要です。
- 各事業所と連携を図り、全体で防災講習を実地し緊急時の対応を学びました。災害時にスタッフがどのように親子、自分自身を守れば良いかを共に考えました。
- 労務について専門家の意見を取り入れて、契約書、就業規則の見直し、健康チェックシートの作成を行いました。
- フードパントリーは中止しましたが、あおばフードシェアネットワークの所属は継続し、物価高騰の中で支援を必要とする人に食料品を提供する一翼を担いました。事業所単位で子ども服のリサイクル活動を検討しました。
- 各事業所がパレット内の他事業所の紹介をしあうことで、多くの利用者にパレットの活動を理解してもらうことができました。
- 同じ法人が各事業を運営し連携している事で親子一人ひとりの悩みに寄り添い隙間のない支援ができました。各事業所で見える利用者の反応を共有することで、対応に配慮すべき点について気づきを得ることができました。

3. 広い世代にパレットの活動を発信し、子育て支援の輪を地域に拡げ、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりに努めます。
   - ホームページやパレット通信でパレットの活動を紹介し、また共に働く仲間を募集するなど子育て支援の輪を地域に広めるべく発信しました。
   - パレットホームページ内のブログ発信を増やすことで閲覧者を増やすことができました。パレットの活動に賛同した人からの問い合わせもあり、仲間を増やすことができました。
   - 公園愛護会での清掃活動や、各事業所が地域のお祭りなどに参加することでパレット周知の機会を作りました。

2） 事業内容

特定非営利活動にかかる事業

①保育室での保育に関する事業

≪まーぶる≫

1. 子ども一人ひとりの個性や成長を大切にし、豊かな日常をつくります。
   - 月齢や年齢だけでなく、子どもの性格や発達段階に合わせた関わり方を意識し、無理なく成長を支えるよう心がけました。
   - 気持ちをまだ言葉で伝えられない子どもの行動を丁寧に見守り、周囲との関係を築くサポートをしました。
   - 友達との関わりの楽しさを感じられるように、大人が仲立ちしながら安心できる環境を整えるようつとめました。
   - 子ども同士が互いに理解し合い、安心してコミュニケーションできるような温かい環境作りを心がけました。
   - 一時預かりを初めて利用するお子さんの気持ちに寄り添い安心して過ごせる工夫をしました。
   - 園外保育で感じたこと、発見したこと興味を持ったことに共感的に関わり関心がさらに広がるようにしました。
   - 自分からしようとする姿を大切にし、先回りした援助をしないように心掛けゆっくり見守り満足感や自信につながるような関わりを心がけました。

2. 異年齢保育の良さを生かし子ども同士の交流を大切にします。
   - 異年齢保育の良さを生かし、子ども同士が自然に関わり合うことで、互いに学び、思いやりや社会性を育む環境を大切にしました。
   - 年上の子どもが年下の子どもに関心を持ち、優しく接したり、遊びを通じて助けあう姿がみられました必要に応じて仲立ちをすることで、温かい交流が生まれました。
   - 園外保育の際に、年齢の異なる子どもたちが手を繋いで歩き、お互いに寄り添いながら安心感を得たり、楽しみを共有したりする様子がみられました。
   - 異なる年齢の子どもたちが共に過ごすことで、それぞれの成長段階に応じた役割を持ち、協力しながら学び合うことで、協調性を育む環境作りを心がけました。

- 子ども同士が自然な関わりの中で、お互いを理解し支え合うことによって、年下の子は安心感を得て自信を持ち、年上の子は責任感を育みながら思いやりを深める環境に務めました。

3. 安心安全に配慮し、子どもが自発的に活動出来るような環境を整えます

- 登降園時に保護者とのコミュニケーションを大切にし、体調や生活状況について聞き取り、疑問には丁寧に応え、不安を和らげるよう配慮しました。
- ミーティングやヒヤリハットで得た情報、日々の保育で気付いたことを活かし、家具の配置を調整したりマットを敷くなどして過ごしやすい空間を作りました。
- 緊急時に備え、定期的な避難訓練や安全確認を行い、子どもたちが落ち着いて行動できるようにしました。
- 遊びの中で安全なルールを学べるよう工夫し、楽しく活動しながら危険を予防する意識を育てるようにしました。
- 環境の変化に応じて、常に安全対策を見直し、子どもたちが安心して過ごせるよう調整しました。
- アレルギーを持つ子どもの利用が増えたため、保育者間の情報共有を徹底し、食事の見守りや食後の清掃を徹底して安全に過ごせるよう努めました。
- 階段の昇り降りや公園の斜面登りなど、子どもが「やりたい！」という気持ちを尊重しながら、安全に活動できるよう見守り、一緒にやってみることで気づくこと感じたことを共有しました。
- 保育中の怪我やヒヤリハットなどはミーティングで共有し常に安全を意識しながら、子どもたちがのびのびと過ごせるよう努めました。
- 毎月、心肺蘇生訓練・窒息訓練・消化器訓練を個人が行い、ミーティングでは全体で確認しあうようにしました。
- 夏場の園外保育や水遊びでは、熱中症計を携帯し気温・体温・水分・排泄に気を配りながら安全に遊べるよう工夫しました。
- 乳児の預かりが増え、睡眠時のチェックは丁寧に行い、寝具にも気を配るようにしました。
- 朝の会・園外保育に出かける際・園外保育時での人数確認をスタッフ全員行い、確認し合いました。

4. 子育て支援に関わる方々や地域で活動されている方々との交流を大切にしていきます。

- 区内でトーンチャイムの演奏ボランティアをされている『ルーチェ』さんを招いて演奏会を開催し、音楽を通じて子どもたちや地域の方々との交流を深めました。
- 毎年、卒室児へのプレゼント用の布巾・お手玉を『青葉の風』のみなさんに制作していただいています。定期利用児の通園バッグの制作は、『縫い処　結いの会』さんにお願いし製作していただきました。交流することでまーぶるの活動を知っていただくことが出来ています。
- 自治会のお祭り準備を手伝うことで、地域との関係を築き、子供会の皆さんと交流でき過去に利用していた親子と再会することも出来ました。
- パレットの他事業所でまーぶる登録会や乳幼児一時預かり事業の紹介をすることが出来ました。
- 双子・三つ子の会に参加しまーぶるの紹介をしました。

5. 保育者間チームワークを大切にし、積極的に研修に参加し保育の質の向上に努めます。

- 保育者間のチームワークを強化し、協力しながら子ども一人ひとりに寄り添い、安全で安心できる保育環境を作りました。
- 毎月のミーティングでは、日々の保育で気づいた課題や改善点を話し合い、具体的な対応策を考えて実践し共有しました。
- 保育士資格を取得した職員が増え、資格取得を目指す職員には勉強方法の共有や実務経験を積む機会を提供してサポートしました。
- 保育指針に基づいた研修を行い、実際の保育の場で活用できるスキルや知識を保育者全員で共有し、質の向上を図りました。
- 子どもたちが落ち着いて過ごせるように、保育者間で役割分担を明確にし、一人ひとりの特性を考慮した対応を心がける工夫をしました。
- ミーティングでは、少人数のグループで意見を出しやすい環境を整え、全員が発言できるような仕組みを考えました。出たアイデアを積極的に実践してみました。

≪家庭的保育室なないろ≫

1. 子どもの主体的な活動や子どもどうしの関わりを大切にし、自由でのびのびとした毎日を送ることができるよう援助します。

- 子ども一人ひとりのありのままの姿や気持ちを受け止め、子どものやりたい遊びを尋ねるなど、子ども自身の声を聞く姿勢を大事にしました。
- 保育者が無理に介入することなく、子どもどうし関わって遊べることを尊重しました。

2. 活動内容に余裕をもたせ、子ども一人ひとりに対し、柔軟で適切な支援を行います。

- 小規模保育の利点を生かし、活動を無理強いすることのない、柔軟で余裕ある日課を心掛けました
- 子どもが自ら成長する力を理解し、発達過程を土台とした関わりの中で、子ども一人ひとりに適切な支援を行いました。
- 季節やその月にちなんだ歌・絵本・製作・遊びを活動に取り入れることで、季節や自然の変化に対する興味関心を高めました。
- 現代の家庭では触れることが少ない、「わらべ歌」や「リズム遊び」を充実させることで、豊かな感性を育みました。

3. 自園調理の良さや、栄養士の専門性を、十分に保育内容に生かしていきます。

- 季節に応じた食材に触れることで、食への関心が高まり、食べる楽しみへつながりました。
- 栄養士による「野菜見せ」に合わせて、野菜の歌や絵本などを保育の中に取り入れ、食育につながるようにしました。
- 調理過程を、音や香りなど五感で感じる環境の中で、子どもたちは食事の時間を楽しみにしたり、食への感謝の気持ちが自然に身につきました。
- 栄養士が直接、喫食状況を見ることで、個別対応ができました。また保育者も都度相談することができました。
- 試食会を開くなど、保護者からの食事に関する相談に、柔軟で専門的な対応ができました。
- 栄養士の専門性を生かした食育計画の作成と助言を、保育職員も理解し、食環境が

充実しました。

- 豊かな食の経験の機会が提供できたことで、家庭での好き嫌いの悩みにも良い影響がありました。

4. 子育て家庭の多様性を理解し、保護者や地域と一緒に子育てを考えます。
   - 健診で連携園訪問の際には、園庭で遊ばせていただきました。
   - 必要に応じて関係機関との情報共有を行いました。
   - 203 号室で、子育て支援活動の一環として、地域に向けた「なないろ育児相談の日」を継続する中で、保護者の相談に応じ、保育士と栄養士が専門的な視点から、アドバイスを行いました。

5. 保育者は保育の中で出てくる課題については、常に話し合いを行い、解決していくことができる力を身につけます。
   - 毎日の振り返りと月１回のミーテイングにて、子どもたちの様子や配慮すべきことを共有し、課題についての意見交換を重ねることで、共通の認識を持ち、より良く連携して保育を行うことができました。
   - 七夕会・ひな祭りなど、行事や文化に親しみを感じられるよう、保育者が積極的にアイデアを出し合い、創意工夫を凝らした活動を充実させました。
   - 療育センターの職員の巡回相談を受けることで、個々の子どもへの接し方等、アドバイスを貰うことができました。

6. 研修等を活用し、保育において必要な知識についての理解を深め、専門性の向上を進めます。
   - 職員が、行政等で行われる様々な外部研修に参加し、リスクマネジメント、人権擁護、自己評価等、多岐にわたってその講義内容を相互に共有し合うことで、保育に必要な知識についての理解を深め、専門性の向上に努めました。
   - 子どもの虐待について内部研修を行い、認識を共有しました。

≪一時預かり保育室なないろ≫

1. パレットの理念のもと、0～2歳児、定員7名の少人数の良さを生かし、感染対策も引き続き行いながら、子どもが安心・安全に楽しく健やかに過ごせる一時預かり保育室を目指します。
   - 子どもが安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時にその日の子どもの様子や体調面を保護者から丁寧に聞き取りスタッフ間で共有し、慣れない場所で不安な気持ちにならないよう、子ども一人ひとりに寄り添いました。
   - アレルギーのある子どもについては、登録時に保護者から聞き取りを行い、複数のチェック及びスタッフ間で共有し、食前・食中・食後、最大限配慮しました。
   - 安心安全な保育室を保つよう、保育環境を整えてきました。
   - 手遊びや季節の製作、わらべ歌遊びを取り入れ、子ども達が興味関心を持てるよう努めました。

2. 保護者の気持ちや悩みに寄り添い、育児をサポートします。また。関係機関と連携し、

一時預かりを必要とする家庭が利用できるように努めます。

- 登録時や送迎時の保護者の様子や表情に気を配り、保護者の悩みや気持ちに寄り添えるよう努めました。またその時々で必要なアドバイスを行うことで、安心してもらえるようサポートしました。
- 関係機関からの依頼によるご家庭のお子さんをお断りすることなく預かりました。

3. 併設型保育室の良さを生かして子ども同士が交流できるように、スタッフ相互で連携します。また、それぞれの視点から、振り返りやミーティングを充実させることで、日々の保育に活かしスキルアップを図ります。
   - 併設型保育室の利点を生かし、小規模保育室の子ども達と外遊びや室内遊びの活動を一緒に行いました。異年齢で過ごす中での遊びや学び、言葉のかけあいなど成長する姿が見られました。
   - 日々の保育の振り返りによって、ひとりひとりの子どもへの理解・ヒヤリハットの共有をし、保育の充実につなげることができました。
   - 行政等で行われる様々な外部研修に参加し、リスクマネジメント、人権擁護、自己評価等の講義内容をミーティングで共有し、保育に必要な知識について理解を深め、スキルアップに努めました。
   - 子どもの虐待について内部研修を行い、虐待についての知識を深めることができました。

4. 乳幼児一時預かり事業の意義と役割、必要性を発信していきます。
   - 行政や各機関に子育て支援としての一時預かりの意義を伝えています。働いていてもいなくても、障害があってもなくても、理由の如何に関わらず、安心して預けられる一時預かり保育室があることを様々な機会で伝えてきました。
   - 青葉区地域子育て支援拠点に出向き、地域の子育て世代に、なないろ一時預かり保育室があることを伝え登録に繋げることができました。
   - 登録時や送迎時、保護者の気持ちに寄り添いつつ、一時預かりの必要性を認識してもらえるよう努めました。
5. 「はじめてのおあずかり券」についての周知と共に利用が繋がるよう勧めます。
   - 登録時、対象の方には「はじめてのおあずかり券」についての利用を勧め多くの方にご利用いただきました。0歳児さんのご利用が増えました。

≪パレット学童保育室いるかくらぶ≫

放課後、就労等により保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. 子どもたちの安心安全を第一に考え、自ら考え正しく判断する力を育み、主体的に放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。
   - 新入生については慣れるまで、職員が学校に迎えに行き、学校からいるかくらぶまでの道の危険個所を確認して歩き、安全に歩くスキルを培いました。日常において、危険の回避、危険箇所の気づきを、少しずつ積み重ね、大きなケガもなく安全に過ごすことができました。公園の外遊びでは、地域の人に配慮することができました。
     公園の安全な使い方については折に触れ、ホワイトボードで図示して話し合いました。

職員だけでなく、高学年が低学年に危険個所について注意喚起する姿も多く見られました。

- 遠足では、電車やバス等の公共交通機関を使うおでかけは、公共のマナーを学ぶことができました。
- 職員による環境整備の他、日常清掃を清掃業者にも依頼し、衛生環境の維持に努めました。子どもたちが行う毎日の当番活動は、除菌作業も定着しています。掃除道具の使い方で失敗もありますが、どの児童も徐々に掃除上手になっています。

2. 異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに思いやり、育ち合える環境を作ります。

- 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して、互いに学び合うことができました。春と秋に、班のメンバー替えを行い、交友関係が広がるようにしました。
- ベーゴマやけん玉、こままわしなど、練習することで上達する遊びでは、どの児童もお互いに刺激を受けていました。現代は、家庭で動画視聴を楽しむ児童が多く、見たことはあるけれどやったことがないことにチャレンジできたことが有意義でした。編み物は人から人へ編み方が伝わり、素敵な作品が次々できあがりました。
- 本が好きな児童が多く、本棚の内容を整えました。本を一緒に読んだり、図鑑で調べたり、本のなぞなぞを出し合ったり、わからないことがあれば本棚を探したりと、どの児童も日常の中で本を活用することができています。
- 外遊びでは、日常的に、葉っぱひろいや虫さがしなど、自然を通した交流が見られました。夏の行事は、高学年が手伝う機会を作ったことで、異年齢交流が深まりました。
- お楽しみ会では、げきや合奏など、当日まで練習を積み重ねる中で、多くの成長がありました。あやとりなど、練習の中で広がる遊びもありました。

3. 子どもも保護者も、一人一人がほっとできる居場所になるよう配慮し、正しい情報提供に努めます。

- 季節の節目ごとに折り紙行事等を行い、子どもも大人も季節を感じられるようにしました。子ども新聞を購読し、子どもたちが社会の情報を正しく得られるようにしました。思春期の高学年児童への配慮のため、和室を高学年優先スペースとし、高学年が取り組みたいことに集中できる環境を整えました。
- 着替えスペースのカーテンやマットをより良いものに新調し、こどもの人権への配慮を高めました。室内各所に、センサーライトも設置しました。
- 登室頻度の違いに関わらず、誰もが安心して過ごせるよう、職員一同、声かけや雰囲気作りに努めました。児童の興味やこだわりは多岐にわたりますが、おもちゃ等は関わりあいが生まれるものを選び、自然な交流が生まれるよう工夫しました。
- お迎えの時間は、その日の出来事を保護者に具体的に伝えることを大切にしました。お便りやインターネット等でも情報発信を行いました。お迎えに来られない保護者には、メールや電話で、情報共有をすることに努めました。

4. 学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育めるようお互いに協力します。

- 学校とは、訪問やお便りや電話などで、連携することができました。特に、緊急時の

対応や下校時の歩き方について、丁寧に情報共有を行いました。学校ごとに作成したいるかくらぶまでの道のりを記した安全下校マップを、保護者や学校と確認しました。通学路状況等の保護者から得た地域の情報を、活動に活かすようにしました。

- いるかくらぶ児童は、公園愛護会の一員として、日常的にゴミ拾いや花壇の手入れなどを行い、地域貢献を行うことができました。特に、秋は落ち葉が多く、葉っぱ集めを楽しみながら活動ができました。
- パレットとは、小学生ボランティア活動等で、いるかくらぶ児童と他事業所とがかかわることができる行事を実施しました。高学年児童が活動したプラレール設置ボランティアでは、遊びのスキルを活かせた児童たちは自信を高めることができ、広場も楽しい雰囲気となり、よい交流ができました。赤ちゃんと接する機会がないまま大人になる子が増えている中、有意義な活動となっています。

5. 保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を工夫して、地域の理解を深めます。

- 春秋の公園清掃は、普段使っている公園をみんなできれいにする中で、交流が生まれました。地域の方やパレット他事業所からの参加もあり、各回 40 名ほどで活動しました。春の公園清掃では、掃除後に皆でおにぎりと味噌汁を会食し、交流を深めました。秋には、市ケ尾高校生徒 40 名程と、いるかくらぶ児童が、一緒に公園そうじをすることもできました。普段の生活の中でも、水やりや草ぬき、花植えなど、公園愛護会の活動ができ、地域貢献ができています。
- 新入生歓迎会では、歌やけん玉で交流できました。秋は、けん玉認定会を行い、大人も子どももけん玉を楽しみました。
- お楽しみ会は、地域の施設で、音楽や劇の出し物を披露しあいました。冬の行事は、20 周年記念おもちつき大会を開催しました。乳幼児親子の参加もあり、参加者 50 名程で、5年ぶりのお餅つきを楽しみ、交流できました。
- 学校長期休期間等は、地域の講師を招いたイベントも工夫しました。

6. 保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、1年生から6年生までの親子のニーズに応じた運営内容を検討し取組みます。

- 利用時間や、学校お迎え、習い事での中抜け、等の保護者ニーズに、柔軟に対応しました。夏季に、市の放課後児童クラブ昼食提供事業がありましたが、対象外の期間について、独自に弁当注文ニーズに対応しました。令和5年度から導入した入退室通知システムから、横浜市の放課後 e システムに令和7年度にスムーズに移行できるよう、2度試行を行い、児童も職員も操作に慣れられるようにしました。
- 学習時間は、個別指導が必要な児童には、アクリル板を活用し、個別スペースを設けるなど、空間の配慮を行いました。学校や習い事の課題が多い児童は下校直後の学習習慣の定着を図るなど、個に応じた学習を支援しました。
- 保護者会の会議は、オンラインと対面形式を組み合わせ、工夫して話し合いました。オンライン会議は1時間と時間を決めて、効率的に議事を進めることができました。
- 6歳から 12 歳までの児童の興味に対応できるよう、遊びやおもちゃの内容に配慮しました。単純な動きを楽しめる遊びについても、発展できるよう声かけを工夫しました。
- 放課後児童クラブとしてのよさ、パレット学童保育室いるかくらぶとしてのよさ、を発信することに努めました。インターネットによる情報発信では、受け手にとって分かりやす

い情報発信を研究しました。

②子育て中の親子の交流事業

≪ぴよぴよ≫

1. 子育て家族が親しみやすい居心地のよい広場づくりを目指します。
   - 親子で楽しく参加できるイベントを企画し、交流の機会をつくりました（ベビータイム、おすわりアート、ぴよさんぽ、びよママワークショップなど）。これらの企画をきっかけに利用者同士がお互いに子どもに声をかけあい、見守り助け合うようすが見られました。
   - はじめての方が来るきっかけとなるように「はじめてさん優先の日」を作りました。
   - 利用者からの相談(子どもの発達、離乳食、眠りなど)に応じて、外部講師を招き少しでも悩みを解消できる手助けを行いました。
   - にちよう広場では父親にも参加しやすいイベントを企画し、（パパと一緒に〇〇、親子で〇〇など）父親や家族での利用が増えました。
   - ランチタイムでは、コロナ禍以降初めて利用者同士が向かい合って食べるようにしました。何気ない会話が弾み、交流が深まるきっかけになりました。
2. メンバーのチームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有し、スキルアップに繋げていきます。
   - 日々の振り返りを行い日誌に書きとめることで、広場の状況をスタッフ間で共有することができました。
   - スタッフやサポーターは利用者の育児不安や悩み、小さな困りごとを話し出せるような雰囲気をつくることで、一人ひとりに寄り添うよう努めてきました。
   - 毎月行うスタッフ会議で課題や問題点を話し合い共有することで、よりよい広場になるための工夫や改善を行いました。
   - 小さいお子さんを子育て中のスタッフが加わったことで、利用者に近い目線での意見を取り入れることができました。

3. 近隣の地域の親子、家族に安心して気軽に遊びに行ける広場があることを知らせます。
   - おさんぽ企画で近隣の公園に遊びに行くことで、そこで遊んでいる親子や地域の人にも広場のことを知ってもらうきっかけとなりました。
   - 通信は 600 部、自治会用に 100 部毎月発行してきました。地域の方々にもぴよぴよのことを知ってもらうことができました。
   - ホームページやブログ、LINE 公式アカウントを使い、広場で遊ぶ親子の様子やイベント情報など、興味を持ってもらえるよう発信してきました。

4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への参加など繋がりを大切にしていきます。
   - 荏田連合自治会納涼夏祭りに団体参加をしました。350 組以上の来場があり、地域に「親と子のつどいの広場ぴよぴよ」があることを知らせることができました。
   - 地域の赤ちゃん教室に毎回参加して、広場のイベントや利用案内をしました。関係機関の方々とも繋がり、情報共有することができました。赤ちゃん教室での広報や会話をきっかけに広場を利用する親子も増えました。顔の見える繋がりを大切にしていきます。

- 地区別ネットワーク連絡会に参加し、荏田地域の子育て支援者と情報交換、交流の機会がありました。荏田地域にある資源をより広く利用者や地域の方々に知ってもらい、活用してもらえるよう努めていきます。
- 青葉ひろば会議に出席し、広場の課題や情報を共有し連携をしてきました。
- 親子で利用できるイベントや地域情報、通信など見やすい掲示を工夫し、利用者の求めている情報を口頭でも伝えました。
- おさんぽの企画で保育園の施設開放に出かけ、地域交流の機会を持ちました。また、同保育園が開催した講座にも参加しました。
- 「保育のぽけっと」で保育資材を借りたことをきっかけに、ぴよぴよに保育士さんが来てお話してくれる機会が増えました。

5. パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、共に子育て家族を応援します。
   - 横浜子育てサポートシステムの利用会員の子どもと子サポの提供会員が広場を利用し、その様子を実際に見たぴよぴよの利用者が、安心して子サポを利用するきっかけとなりました。
   - 青葉区役所のハローベビークラスで広報をすることができました。妊娠期から地域にある広場を利用できることを伝え、それをきっかけに見学されることがありました。
   - ラフール主催の青葉区子育て情報発信デイに参加し、区民の方に広報することができました。また、ラフールサテライトの「広場 DE 紹介」に参加しサテライトの利用者に広報することができました。

≪ぶーぶーしえすた≫

1. すべての育児中の親子が他の親子とつながりを持つと共に、地域とのつながりを持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。
   - 週５日常設と月に二回程度土曜日、祝日に広場を開催し、いつでも誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように居心地のよい広場になるよう環境を整えました。
   - 土曜日・祝日開催では、普段、保育園に行っている親子とこれから通わせようとしている親子との交流の場となっています。
   - 安心、安全に過ごせるように終了時に館内消毒を行い、広場環境を整え広場を開催しました。
   - リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあい、助け合う場になるよう努めました。
   - イベントの日だけではなく、通常の広場での親子のようすをブログにて紹介し、利用を躊躇していた親子や、居場所を探していた親子に気兼ねなく利用できる広場である事を配信しました。
   - Baby タイムやお話し会、英語で遊ぼう、ヨガでストレッチのイベントは、お子さんとともに親子で一緒に楽しむイベントとして好評でした。
   - 手作りの日は利用者さん同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
   - 広場玄関に通信やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらうことができました。また、地域の掲示板に通信を貼って存在をアピールしました。
   - イベントを行い広場に来てもらいやすい環境を作りました。（Baby タイム、お話し会、

手作りの日、英語で遊ぼう、ストレッチヨガ等）

- 育休の方向けのおしゃべり会は保育・教育コンシェルジュさんをお呼びして開催しました。たくさんの親子が利用し、毎年とても人気のイベントですが、今年度もとても好評でした。
- 國學院大學絵本キャラバンの学生さんが不定期に絵本の読み聞かせに来ていただき、学生と利用者親子と交流することができとても好評でした。

2. ワーカー・スタッフ・ボランティアのチームワークを大切にし、外部研修などを活かし、スキルアップしていきます。

- 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。また、気になる親子や配慮が必要な場合もスタッフ会議で情報共有を行い、子育て支援資源について話あい、場合によっては地域の保健師や主任児童委員などに話を繋げともに見守りました。
- あおばひろば会議、Fブロック会議の研修に参加し、共有することで、スタッフのスキルアップに努めました。
- 日々の日誌記入などで気になる親子などの情報も共有しました。
- スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
- スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を利用者が話せるように努めました。
- 相談内容は個人情報を保護し、外部にもらさないことを厳守しました。
- 積極的に外部研修に参加できるようシフトの調整などでより参加しやすい環境にしました。

3. 地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。

- たまプラーザ地域ケアプラザや山内コミュニティハウスなどでの赤ちゃん教室で地域の方々や保健師、主任児童委員との交流や情報の交換ができました。来年度も顔の見える関係づくりを大切にしていきます。（山内、たまプラーザ、あざみ野）
- たまプラーザ次世代タウンミーティング、保育子育てネットワーク作りなどの会議などに積極的に参加し地域の情報交換をすることができました。
- ハロウィンイベントでは地域の商店街の方々と協力して開催することができました。
- たまプラーザ商店街の夏祭りでは、國學院大學絵本キャラバンの学生とコラボし出店することがました。また、たくさんの元利用者の方と交流することができました。
- 美しが丘地区・地区別計画推進会議主催のキッズとママ・パパの音楽会に参加し、読み聞かせや手遊びを披露しました。

4. 他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所など子育て支援ネットワークを活用し、連携して子育て支援の充実に努めます。

- ネットワーク会議に参加することで、保育園、センター保育園、拠点事業の話を聴くことができました。
- まーぶるの登録説明会を積極的に開催し、預かりの状況などの情報を利用者登録に繋げました。また、次回の登録会を希望される方も多くいらっしゃるので来年度も積極的に開催していきます。

- 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。また、青葉ひろば会議研修では、療育あおばについて学びました。
- 一時預かりまーぶるやパレット一時預かり保育室なないろの情報などを利用者へ伝えました。
- 地域子育て支援拠点ラフールや一時預かり事業所やつどいの広場など通信やパンフレットを広場の見やすいところに掲示し利用者に伝えました。

5. **行政からのお知らせを掲示するとともに、広場をより身近に感じ、気軽に来てもらえるよう、毎月の通信の発行、ブログ、LINE などで広場の情報を発信していきます。**
   - 青葉区内の赤ちゃん教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示し、また、対象月齢の利用者親子には案内をしました。
   - 保健師が開催している赤ちゃん教室やマタニティ教室、地域の子育て支援者が行っているひろばで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
   - 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。こどもが遊ぶ場所なのでとおもちゃなどを寄付してくださる方もいらっしゃいました。
   - ブログや通信（毎月発行）、公式ラインで広場の様子やイベント報告、イベント情報、今後の予定を広報しました。公式ラインは毎年お友だちが増え続けています。
   - 保育園や幼稚園情報を知らせるため、たまプラーザ地域の保育園情報などわかりやすくファイルしたり、一時保育の保育園情報を掲示したりしました。

③その他この法人の目的を達成するために必要な事業

≪ラフール≫

1. **妊娠期、多様な親子が人と出会い交流する場をつくり、ネットワークを生かして、地域につなげます。**
   - 出張ひろば「“金曜日は”ふらっとラフールたちばな台」を毎週金曜日 10 時～15 時で開設しました。場所は、たちばな台 1 丁目の町内会館です。区、町内会、ラフールで意見交換を行い、それぞれが役割分担し約4カ月の準備期間で開設することができました。
   - ラフールが出かけてひろばを開催する「出張ラフール」や区内の絵本がある施設をめぐる「おさんぽ de 絵本シールラリー」を開催し、親子を身近にいる支援者や施設につなぐことができました。
   - 妊娠期の人、家族が参加できる企画にも力を入れました。企画後、必ずひろばを紹介し、親子と交流の場を作ることで、出産前に産後の生活をイメージできるよう取り組みました。
   - ひろばでは、子ども同士の関わりが子どもの育ち合いを生むことを養育者同士が共有し共感し合える「電車の会」や「きょうだいの会」「砂場の会」を開催しました。また、子どもたちを見守りながら、養育者同士が話せる機会を作れるよう環境設定や企画を意識しました。変化を実感することもできています。
   - 外国に由来のある利用者が増えました。多言語での歌や手あそびを取り入れ、日本の行事をやさしい日本語で表記して伝えました。外国語や翻訳機も活用して様々な方法

でコミュニケーションをはかりました。外国に由来のある利用者の中には母国語で絵本の読み聞かせをしてくれる人もいました。

- 紙媒体からインターネットでの情報発信が主流になってきている中、ラフールも子育て情報ファイルの WEB 化に取り組み、ラフール HP 上に「子育て情報～Basic～」をプレオープンしました。2025 年度オープンに向けて広報に力を入れて行きます。一方で紙での情報提供の必要性がある「青葉区子育てワクワク MAP」の再編に向けて取り組み、2025 年度発行を目指しています。親子が地域とつながる一助となることを願っています。
- 奈良中学校のふれあい体験授業に数組の親子と共に参加し、親子と中学生が交流することができました。妊婦体験や離乳食コーナー等のブースを用意し、地域で子どもを育てることについて中学生が学ぶ機会を作ることができました。
- 1年を通して様々なボランティアや実習生を受け入れました。ひろばで過ごす親子が、地域の人や次世代の子育て支援を担う人と交流できるひろばを作ることができました。

2. 地域子育て支援拠点のもつ多様な機能や役割を区民や関係機関に知らせ、様々な形の子育て応援団を募ります。

- ラフールに支部を持つ横浜子育てサポートシステムは、「子サポ de あずかりおためし券」の発行など制度充実の後押しもあり、活動件数が大幅に増加しました。利用会員の増加に対応できる提供会員も増やすことができており、断ることなく紹介できています。
- 支援者向け研修、区民向け講座、孫まご講座を開催し、地域の親子や子育てサポートシステムの提供会員、保育園や地域の施設等から多くの参加がありました。開催前後でラフールの紹介や見学を行い、拠点の役割について知らせることができました。
- 区の広報紙に拠点の役割、横浜子育てサポートシステムについて掲載の機会が得られ、幅広い層に広報することができました。
- 福祉保健センターで行われる子どもの4か月健診時に情報提供を行う「ワクワク情報コーナー」や青葉区健康フェスティバルへの参加を通して、拠点や子育て支援について区民に周知することができました。
- 青葉台東急スクエアアトリウムでの「青葉区情報発信デイ＆ラフール mini ひろば＠青葉台東急スクエア」やたまプラーザ東急での青葉区保育課との合同イベント「Aonico ひろば」で青葉区の子育て事情や地域の子育て支援について知ってもらう機会を作りました。親子には地域の身近な子育て支援施設や人、制度について紹介し、広く区民に向けて青葉区子育て応援団や子育て支援活動についての周知を行いました。